

本学の内部質保証活動に対する外部評価について

2024年3月
内部質保証会議議長
澁谷正史

本学では、「上武大学内部質保証方針」にもとづき、教育・研究活動等が十分に適切な水準であることを本学自らの責任で保証するため、恒常的・継続的に内部質保証活動に取り組んでいる。

この「上武大学内部質保証方針」において、より信頼性の高い内部質保証を目指して、外部評価（第三者評価）を認証評価機関による認証評価結果とともに活用することが定められている。

今年度の内部質保証活動については、その成果物である『点検・評価報告書』などを対象にして、以下の概要により、第三者による外部評価を実施した。

評価項目	公益財団法人大学基準協会が定める大学基準（第3期認証評価基準）を評価項目とした。
外部評価委員	北村幸雄氏 （上毛新聞社 元取締役会長・元代表取締役社長） 新井久男氏 （高崎信用金庫 理事会長・前理事長）

外部評価委員による本学への提言は次頁のとおりである。

上武大学の内部質保証活動に対する評価結果（提言）

2024年3月

北村幸雄

新井久男

2023年度の上武大学の内部質保証活動について、主に大学基準協会の大学基準に沿って第三者の視点から評価を実施した。

上武大学は、1968年の開学以来着実に発展し、建学の精神である「雑草精神（あらくさだましい）」のもと、いつの時代であっても、どのような環境におかれても、実社会において即戦力となる幅広い職業人の育成を図ることを目指して、創意工夫をしながら粘り強く教育・研究活動に取り組んでいる。

スポーツ面では、硬式野球部をはじめ各種運動部の活躍はめざましく、全国的にもその名声は知られているし、教育・研究面では、学部学生による卒業研究への取り組みや大学院生による修士論文作成への指導を通じた教育の質の向上への努力は特筆できるものである。

また、「絵手紙」を中核にした社会貢献活動、地域・国際交流活動への積極的な取り組みは、今後も大いに評価できる。

さらに、上武大学の強みとして財務状況の健全性が指摘できる。学校法人の財務の健全性を示す重要な各種指標は良好で、財務基盤は強固であり、今後も充実した教育研究活動を遂行するうえで優位性が高いと言える。

しかしながら、昨年8月の日本私立学校振興・共済事業団の調査結果が明らかにした、5割を超える私立大学が定員割れという厳しい環境が今後も続いていくことは確実である。上武大学にとっても従来以上に難しい時代が到来したのは明白であろう。

こうした認識を踏まえると、内部質保証活動による自律的な教育・研究活動の改善・向上への取り組みは、より一層の重要性が増すと言える。具体的には、これまで以上に「学修者目線」を徹底させた対応（学生による学習成果の適切な把握と評価の対応など）が必要不可欠になる。

そのためにも、学生サイドのニーズや実社会からの要望を調査して、その調査を十分に反映した中期計画を策定し、その中期計画の実現を図るために、内部質保証活動を恒常的・継続的に実施していくようにすべきであろう。

来年度、大学基準協会による認証評価を受審するが、その認証評価に真摯に向き合い、将来の上武大学の発展に是非役立ててほしい。